

令和 8 年度第 1 回 中津市部活動地域展開検討委員会 議事録

◎会議概要

【日時】 令和 8 年 7 月 13 日（月） 14:00～16:00

【場所】 中津市役所本庁 3 階 大会議室

【議題】：

1. 部活動地域展開における国・県の検討状況について
2. 中津市における部活動地域展開の方針について
3. 質疑応答・意見交換

◎出席者

（1）委員：12 名

秋吉委員、富永委員、長野委員、直田委員、中尾委員、代田委員、吉田委員、岸原委員、田中委員、小林委員、松永委員、木下委員

（2）事務局：9 名

大下教育長、奥久部長、尾家室長、馬場主幹、山下主任、戸成主任、徳市コーディネーター、折元主幹、市尾指導主事

（3）関係課：11 所属

教育総務課、社会教育課生涯学習推進室、歴史博物館、小幡記念図書館、総合政策課、地域振興・広聴課、商業・ブランド推進課、三光支所地域振興課、本耶馬溪支所地域振興課、耶馬溪支所地域振興課、山国支所地域振興課

1. 開会

○尾家部活動地域展開推進室長より開会の挨拶を行った。

○事務局より、中津市部活動地域展開検討委員会運営要綱（以下、「運営要綱」という）第5条第2項の規定に基づき、出席委員が12名中12名であり会議が成立する旨を報告した。

2. 委員紹介、委嘱状交付

○委員が自己紹介を行った。

○委員への委嘱状については、机上配布により交付した。

3. 教育長あいさつ

○大下教育長より挨拶を行った。

4. 委員長、副委員長選任

○運営要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、A委員が委員長に、G委員が副委員長に選任された。

5. 議題

○議事開始前に、委員長より、運営要綱第6条の規定に基づく会議の公開の可否が諮られ、公開とする旨が承認された。

（1）部活動地域展開における国・県の検討状況について

●事務局より、資料（2ページ～12ページ）に沿って、部活動地域展開における国・県の検討状況について説明を行った。

【質疑応答・意見交換】

○G委員：自身は学校現場にいますので、教育委員会からの周知により、国等の検討状況は把握できている。学校現場以外の立場の方々は理解が十分でないかもしれないので、これらの方々から疑問点がないか聞いた方が良いのではないかと。

○I委員：今後の部活動の在り方について、保護者の間では不安と期待が混在している。教育委員会の方で、部活動地域展開に関するアンケートを昨年度実施していただいた影響もあり、一定周知されてきているが、情報が届いていない層もいる。小学校の保護者は当事者意識がまだ薄いため、情報共有が重要である。

○D委員：部活動地域展開の理解の状況については、保護者一人ひとりでみると個人差を感じる。学校としては、PTA 総会等の会議の場で、教育委員会から伝達されている範囲で情報

を伝え、理解促進に努めている。

○J 委員：国が休日のみ部活動地域展開の期限を定め、平日を定めていない理由は何かあるのか、把握していれば教えてほしい。

●事務局：受け皿となる方や団体が、休日であれば対応可能ではないかということから、休日の展開が先行してきたのではないかと考えている。最終的な進め方は、自治体ごとに判断できるものであるため、検討委員会でご意見をいただき、様々な点を確認したうえで、中津市の方針を決定していくことができれば良いのではないかと考えている。

○H 委員：教育委員会や学校が、こどもや保護者などに周知・説明している統一的な内容が分かれば教えてほしい。

●事務局：これまで市報なかつで 2 回、今後部活動を地域展開していくこと等についての記事を掲載した。中学校の新入生説明会でも、今後の部活動地域展開の方針や、現在の中学 1 年生が卒業する時期までは部活動が存続する旨などを説明している。今の小学 6 年生が中学 3 年生になる頃までに、地域で参加できる活動が盛んになってくれば、学校部活動ではなくそれらの活動への参加にシフトしていくなど、方向性の検討が必要になると考えている。

（２） 中津市における部活動地域展開の方針について

●事務局より、資料（13 ページ～37 ページ）に沿って、中津市における部活動地域展開の方針について説明を行った。

【質疑応答・意見交換】

○K 委員：現状の市立中学校の部活動は、活動日や活動時間のルールがあり、それを遵守して活動しているが、学校外のクラブチームになったときに、これらのルールが守られず、長時間練習が常態化する懸念があるため、指導者を含めた関係者への十分な理解促進が必要。指導者の資質を確保していくためにも、厳格な審査を行ったうえでの認定や、認定後の管理が必要であると考えます。

○C 委員：練習時間等の議論も必要だが、費用面についても今後具体的な議論が必要と考える。中学校の吹奏楽部の活動が、地域展開後に学校外の活動となり、場所代や楽器の購入費・修理費などの金銭面の負担が大きくなり、参加費が高騰すると、家庭の経済力によっては参加費が払えず、活動に参加できないこどもが出てくるのが懸念される。こどもたちの参加の機会を失わないためにも、予算や費用負担についての調査と議論が必要である。

●事務局：学校施設の活用等も含めた学校との連携や、費用負担については、アンケートの結果等も踏まえ、次回以降の委員会で事務局から案を示しながら協議できればと考えている。

OH 委員：市全体の方針を決めることも重要だが、休日・平日の展開の進め方は、最終的には活動によって異なってくるものと考えられる。それ以上に、中津市として子どもたちにどれだけの「受け皿」を作り、活動の機会を提供できるかが最も重要であるとする。

◎承認事項

委員長より以下の 2 点が諮られ、承認された。

1. 中津市における方針として、「休日と平日を並行して同時に地域展開を進める」こと
2. 令和 8 年度中に、計 4 回程度（最大で 6 回）の頻度で検討委員会を開催すること

◎事例紹介・全体総括

E 委員から、全国自治体における事例の紹介及び本日の委員会の全体総括を行っていただいた。

OE 委員：

部活動地域展開の最大の目的は、「国が言っているから」や「教職員の働き方改革」ではなく、「次世代を担う子どもたちにとって、もっと豊かな教育環境を作ること」であり、これを社会全体で共有することが重要である。

先進地の飯田市・下伊那郡では、子どもたちの機会の創出を図るため、エンジョイスクエアの取組を令和 2 年から始めたところ。夏・冬と年 2 回実施しており、令和 8 年度夏は 108 種目の活動を展開している。登山体験やスラックライン、忍術など、部活動では経験できない種類のものもある。

最大の課題である資金面については、国の補助メニューが当面の間用意されると思うが、それに依存してしまうと、補助制度がなくなったときに継続が困難となるおそれがある。自立可能なものとするには、市だけで進めるのではなく、民間などからの資金活用も含めた連携が必要と考える。エンジョイスクエアにおいては、25 の地元企業等に自らクラブを実施していただくとともに、これらの企業からの協賛金などによる持続可能な運営を図っている。企業側も当事者として関わることを重要だと考えている。

人口減少・流出が進む大分県においては、県内企業に対し、「10 年後、20 年後の地元を支える子どもたちを育てるための投資」として協力を呼びかけることが成功の鍵となる。

冒頭に秋吉委員長から話があった、「地域全体で取り組む活動」ということばがキーワードであり、このことをより多くの関係者と共有していくことが、今後部活動の地域展開を進めるうえで重要になるのではないかと考える。

6. 閉会

事務局より、次回（第 2 回）の検討委員会は 9 月から 10 月頃に開催を予定している旨が報告され、閉会。